リーダーになる！プラス

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

嶋津良智■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。13年、『怒らない技術』シリーズほか、著書の累計が100万部を突破した。
www.leaders.ac

第107回

仕事を続けるということ

仕事を続けることは働くことの楽しさ・喜び・素晴らしさを伝え続けることにつながります。人は社会と関わることで充実感を得ることができます。

「100億円あったら何をしますか」と聞かれたら、どう答えますか？ わたし自身はというと、正直分かりません(笑)が、「これだけはやる」というのが、三つあります。一つ目は、事業創出。二つ目は、次世代リーダーを育成するための学校の設立です(今よりも大きな規模で展開したい)。

そして三つ目が、仕事を続けることです。理由は、大切な子供に、働く素晴らしさ、働く楽しさ、人の役に立つ喜びを、身を持ってしっかり見せ続けてあげたいと思っているからです。リーダー学を研究していると、人は必ず身近な人や環境の影響を受けていることが分かります。子供が最も影響を受けるのは親ではないでしょうか。

そう考えると、もっとも身近な存在である親が、働く素晴らしさ、働く楽しさ、人の役に立つ喜びをしっかり見せて、子供自身が「そんなに仕事って楽しんだ」、「仕事ってそんなに面白いんだ」、「人の役に立つことは素晴らしいんだ」と思えるようにしたいのです。誤解を恐れずに言えば、そうすることが、われわれ大人の責任だとわたしは思います。

だからといって、朝から夜中まで働いて、くたくたな姿を見せるということではありません。仕事をして輝いていて、あこがれられるような存在であり、見本となるような大人でいることが親の責務だと考えています。いろいろな形で大金を手にして遊んで暮らしはじめた人を何人も知っていますが、遊んで暮らすことに飽きて、また仕事を始めています。人間の心理とは不思議なもので、いくら高級なステーキでも毎日食べていたら、さすがに飽きるのと一緒なんですね。

働く楽しさと喜び 素晴らしさ伝え続ける

こんな話があります。図書館の求人で、高給なバイトがあり、人が殺到しました。仕事内容はというと、本棚から本棚に毎日一人でただただ本を移すという作業。結局、集まった人たちの誰一人、仕事が続かなかったそうです。その理由について考えてみたのですが、おそらく、「仕事がつまらなかったから」ですよね。

このエピソードから、仕事には、お金に変えられないものがあるということを教えられます。人は何らかの形で人と関わり、社会と関わり、そこに自分の存在価値があるからこそ、生きている喜びや充実感が得られるのだと思います。

いろいろな意見はあると思いますが、わたしは「働く楽しさ」、「働く喜び」、「働く素晴らしさ」を伝えられる大人でありたいと思っています。セミナーでわたしがよくする話は、わたしにとっての一生の課題なのですが、自分の子供から「父ちゃんかっこいー！」と言われることなんです(笑)。